慈眼

兩大師傳記

四

教林藏書

教林文庫
文庫7
169
4

早稲田大学
圖書館藏書

文庫7
169
4

東叡山開山慈眼大師縁起巻上

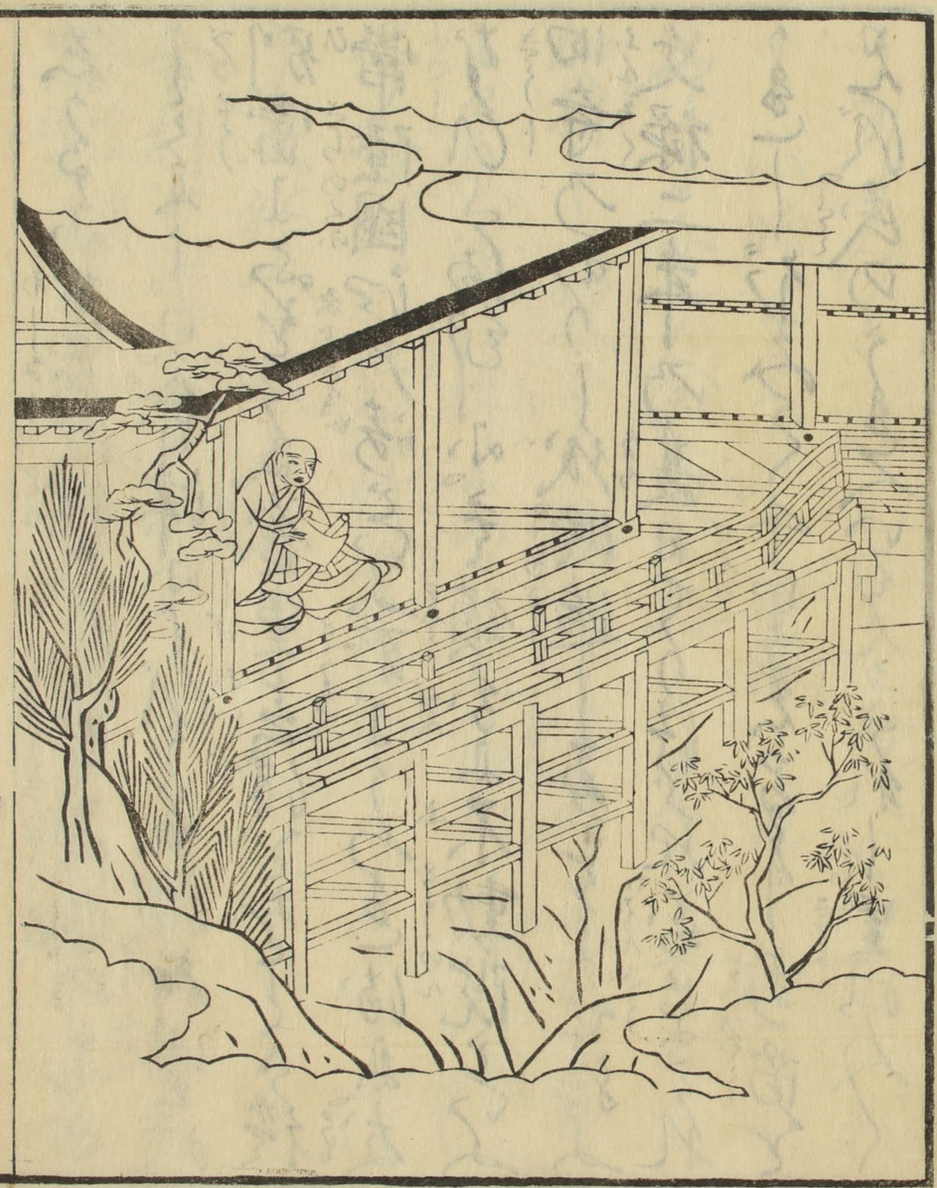
慈眼大師（韓天海）陸奥國會津郡高田の郷
ゆゑ生まれ給ひ蓋名僧理たる事華盛
なれ一ぞくとなん又將軍義澄乃末孫
法子とゝ人を作り。海師いまもとゞ問
俗氏乃事人のとひうど。氏姓を移年
もゝとゝれて出こまうぶ一度宗門乃入
めまとぞ思ふもあれまりくらうなし
とて乃給ぶりの多秋ぶその実まりぶに。

時流季世に及ぶべし出家遁世の輩
もしこの言傷りも出さんと云て
さびしきなりしうり酒さうれん
出家の輩者共くもむきい嘔吐し
得乃法師とぞいひきるとよとげあふ
まゝ心氣清朗あく聰敏他よりあ
人参まどもしろうびあるもくそ
まどもいろ秋分の夜ちうあ殺しこの者

乃人よりあちまつるくも屋敷分祈を
殺く賤卑の者ありひくもいやし
やあ思ひをすし心浩然としてけうり
勅を殺しあぐまゝ海ゆるさそい幼学
の始しまも期頤のうひたちうり過
出家まぐ時乃月も経書読み殺
あぐ杖突婆しあもをあり出家す
すゝまれ礼で遐途碩徳はあうぐひ
出家どとうす殺しし天文年中あ始く。

南山りの行り。修学功深くして神藏寺よりとみ移り。實全上人よりみくし教観の深旨をうけ。三井より権僧正に實しるし人よりあひ。倶舎性相の教意を学ひ。其より南都に下り法相三論等の諸家乃教法を習ひ。又成重しるひし者。天法神乃の奥義を伝へ。ありなる日本記神代巻を求ていと。足利學校より帰りて。孔老文と

ゝみ道義とゝ教より。首楞厳周易なゝとひゝ移ゝ。又会津にて大寧禅師といふ人にあひて。教外別傳と發明し。善恕和尚より。碧巖集をゝく。一百則を結頭とる公し移ゝ。甲陽の守護源晴信入道信玄公に教をゝやまひ。山門正覚院豪盛と結じ。碩学の僧あまたにつゝき。議論ありしに。海師謙師勅移ゝ言辯懸河乃ごゝく。玄理深渕よひくの、



為ば。豪盛海師の辞理奇なる歌と成
して。惠心一流七箇三重の奥旨ひろ
く。付囑し給ふ。是ぞ信玄の崇敬
いとあつし。

志うるゝ小芦名源理大夫盛高俗類のたゝ
しゝ又ゝり會津小ゝ稲荷堂ゝ
別當よりをくる盛重ゝ法とをゝゝ後
常陸國江戸崎ゝ所ゝうゝ法ゝ友
なひゝ領分ゝ不動院ゝ
同寺乃ゝ紙漉造ゝ
文禄二年乃夏月てり法紀茅萱ゝ
ゝゝゝみく千里ゝ
民のうゝいゝゝ里ゝ

うゝみく師ゝ雨ゝいゝ紙
ゝ小師をゝゝ江潭ゝ
ゝ女一人ゝ紙
加持ゝ海師ゝ
ゝゝ海江潭ゝ
佛舍利一粒を竹葉ゝ
うゝ舍利ゝ
舍利ゝ雨ゝ
黒雲ゝ

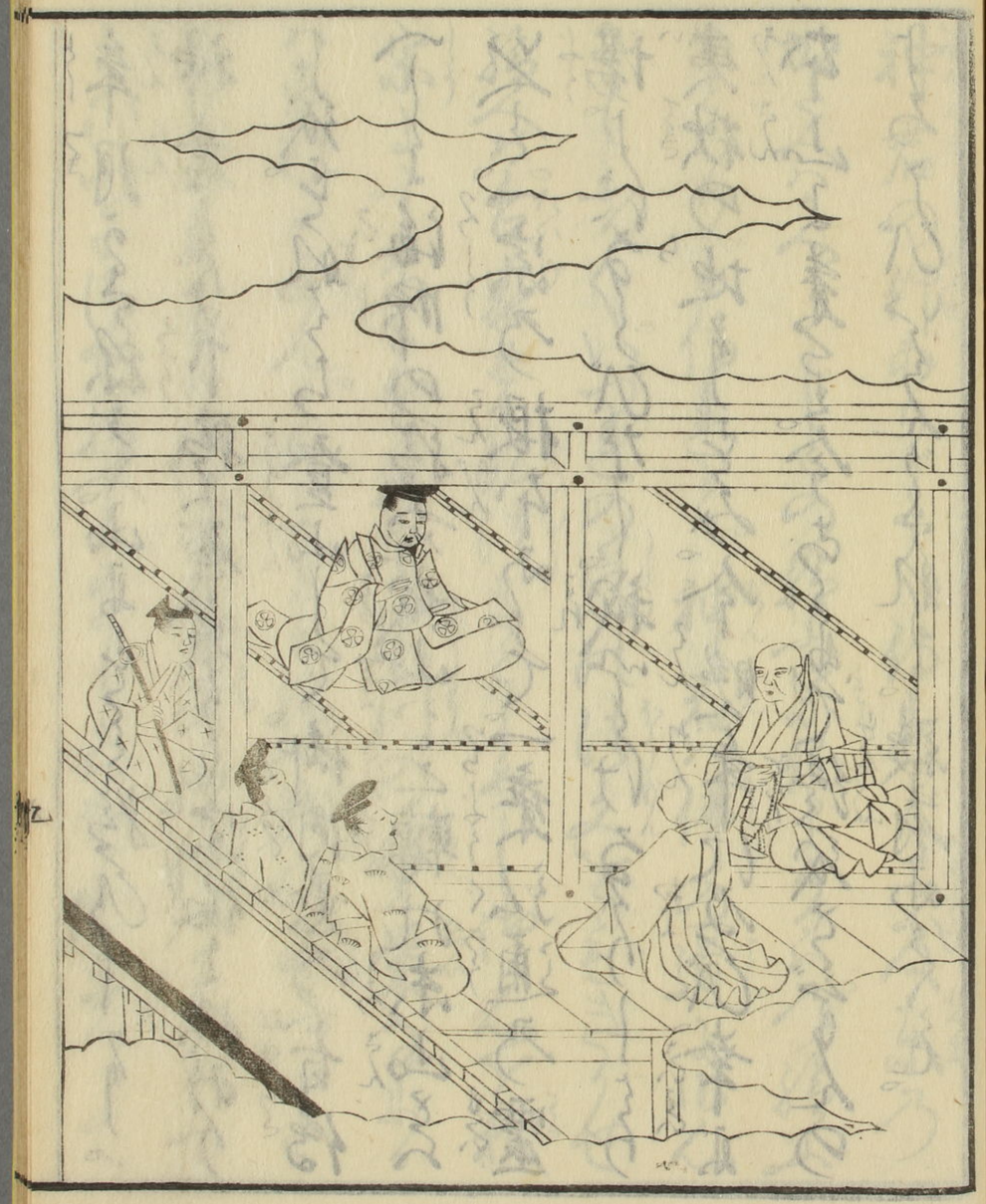
ぞりして犬畜生に隆そそ[illegible]ぐ稲
穀を多くとる人百穀をのりく久をのあ
まれます人もはくうの魚をりそのを女れ行来
あづ稲しどいづこを思者ゆくをもまる人な
ゆりけるとそこのの式祐公今ま尚山の毛
堂りり侍れ。

慶長四年武州仙波喜多院に入寺し
ゝ也ゞ程なゝみ法ゝく同八年に下野国
長沼宗光寺に移り法ゝ同じ
十二年叡岳乃高井に移りいぐ
きて爭論に及びしゝ。東照大權現
さとるゝの乃府城に召るゝ。權僧正
豪盛と一ゝの首として衆徒とろぐり
ゆうで来くゝ。神君理地
ゝゝめ給けさせ給ふく悪徒とど

山に命じ給ふ其後関東の間名
とゝろる僧と撰ゝ津ゝとゝべしと。施
藥院入道宗伯に作下を授きしば法寺
のゝ。碩徳乃人くとゝゝしゝ長沼
宗光も檀僧正天海に賀行兼倶
人ゝ作りゝ人くゝ中者ゝとゝれゝ山門
本院南谷南光坊にます〳〵てんとゝぐわさ
給ふ人ゝ宗伯天海と駿城に参ゝ
神君御對面ゝて乃給ゝをゝゝ

童子侍りしとそ。さて山よりのぐりもせんとて
出ぬ。あらしの武州河越の渡りを渡り
喜多院へ東國めぐりの人家の雄の櫃
林忠こ様侍りそこ住持せし
我の寺とりさてそんさ後ど先言ふ
らざまとだまげ山よりのぐり本山学
問とそこの修べ寺ぐ年ちさ修ようか
べくぐり修へとの修とせ言ふ山なる
宿世のちの契りあやそ先くのちの新面

ふうくの修のくくそそ不思議なしと人々
山伏ありけく山よりのぐりの住修へる。
山僧ちくく四舎の僧正ハ准寝ゐれば本山
の法中僧都ようく山事四法なり
とかしく智樂房と家門の称号を
修りの修べ檀僧正の住ど修へ僧と
に小國大臣来朝大國矣本位次の道理
と為べ法をそこ修ふあけて住修へ
まくぬ出ぬまべしくれりそ一點先山



景ようで寂寥と照とうしたがうもとく
なく勢多の煙もうとうりあれば死ぬく。
いとけなくおとうけふよ宗伯ぞ三夜の
かとろびもとうあひ一杯乃むすきわうう
もどうく沙汰してようづよいとう成まふ。

年月のさゝ[illegible]く。山ゐとゝ[illegible]ひ[illegible]り。
神君より下[illegible]宗伯[illegible]あり
しゝ[illegible]ゝ登山して御問意の有[illegible]
へゝ海師の[illegible]我山ハ之轉れ未山ゝ
以て一宗の根本ゝ[illegible]一乘弘通の靈
場[illegible]び[illegible]我[illegible]ゝ[illegible]
夷狄の地[illegible]今晩年に及び幸ゐ
本山ゝ来ゝ今[illegible]て終[illegible]の
よろこびいかゝ[illegible]後府ゝ[illegible]

神君の仰ありゝ[illegible]ゝ伝ゝ二度来り
かゝゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]宗伯[illegible]の[illegible]
へゝゝ[illegible]ゝ伝ゝ[illegible]ゝ。神君ハ佛の道ゝ[illegible]
ざゝ[illegible]ゝいづゝの宗門法ゝ[illegible]
[illegible]ハ古家ゝ仏法ゝ[illegible]ゝ[illegible]
宗ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ宗門の[illegible]業ゝ[illegible]
ハゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ伝ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

さうべんでゝ侍らんとの給へ宗伯道とゝ
殿のゆゝしくまさしき沙法しゝ給へり後城
よ差給へ。　神君やゝて御対面ありて。
いとしふかゝりけゝ万事とり給へとよろこび給へ
てむさし野を狩し河越よりらべ仙波ま
蕭寺み侍らんとやゝくうのもふ仏給へとの
給へ。屋ゝくとるゞ付府と立て武城よりの
大樹へ　秀忠公　まゐゝくゝ仙波ゝ
仏寺多院よ入寺し給へ。ほゝくほゝ後城

城よゆゝり給へし御敬寵日ゝ月中のゝ
つゝあさゆゝりなゞつさひ給へ俗諦常住
の法文と説給へ給へ
源とゝさゝ給て御始祖ゝ以来九代
まゝぐの浄土乃宗とゝ名ゝ
帰し給へ山王一實乃神道ま真義と
法ゝ勢ゝ御ぞゝ乃さゝを
まゝんとゝ給へ。

拠れば十四年、ふ門ひらけて清義の大令をとるべく、或さとあり。ちゝ伯、探題に清探乃職をもれべ。その仁曲りかたし。こゝ小海師に宏才博覧の人をもれべ。の外誰か伯ならん。

玄の往ぬ。沖いとゝ後悔せと云ふ。

神君へ申しべ出ゝ後悔ゝ。

主職の勅許とゝ。

重ふつとゝ。新題者の精義厳

し宵て。上皇後陽成院度〳〵先

くぼりをつくりきりを拾ふ杖ぬやの法服
一袈裟燕尾の帽巾一つ拾ひとる巾ハ紙まく人
ぬくもりぬく事あり[illegible]ど。壱のあゆみ[illegible]べ
ゆくんあ[illegible]ぢ[illegible]堂上ふも此杖ぬくべし
とのぐ[illegible]ありぞれのこゝ[illegible]ば。毘沙門堂
門宮ふ拾ふ宸翰とゝさま。権僧
正紙特じ正ふ任じ拾へ。

松ヶ下十七年　神君ひさしく乃国河越より
狩り給ふを給ひ　ふるし御云禁令
ぐく仏渡りとて　勢給つ奇乃ちゝ
只ん給へ　夏ごろのふるく人給すの
ていとく育ぐこと　舊ち彩りかとつとよ一字の
草堂あり　蔓破月桃常住と　鬼しと書ん
只てくあり本尊　泳陀如来ぬ　像ぐとう
とく仏もど　豊金ぬ　神を奉り　消
四八の相好も　奇しくちたる　紙ぬ　綾んじて

唱　乃御　渡　袖　ありあまり　ゆ　ば堂
寺　作り給　ん　て　ま　の　縄　で　ば
う　ま　給ひ　く　み　つ　ま　作　ま　ぶ
形　ば　た　ま　給ひ　荘　園　地　く　よ　ま　せ
給ひ　本堂の本尊　古　ま　泳陀　給　紙
神　思　い　く　ば　ば　ま　や　泳陀　と　て　業　所
仏　と　安　玉　と　べ　き　て　給　る　そ　の　祈り　ハ
ゆ　ひ　う　ざ　う　ま　小　神　号　あり　く　御　本　地
薬　所　て　侍　る　こ　ま　い　と　不　思　議　なれ

下野國日光山に神護景雲元年に勝道講師はじめて入給ふ。慈覺弘法大師おこたぶ。梵剌とて佛像を敷剌し給ふ。後に二荒山の秋は月に玄明長秋の色ぞ。とてもしの標茅原乃朔は霜に草の末葉とぞ。日域たぐひなくあさ蕭奇なるもあるべし中ぢう。修驗の法乃ゝ佛法衰微

し。僧弁ゆも俗意とのち確執のこ生来
なれば。神君きこしめしく叡頂と追
撥し給ふく慶長十八年彼山と海師ゐ
あらそひの神神鎮座成られく賞せる
ゐやあんさて元和二年のむ月乃十日ゐ
ゆりうも。神君ゐ〻ノ藥給ひしゐ病
床ちく海師ゑ成め。法験比類の深義山
ゐ神乃生ん玄旨をいふくさそう給ひて
乃給ひうゑ。我久しく天ゐと掌ゐ握り

世成嗣ゐ拾ゐ七旬ゐ有まれだ。
何ゐ生ん有ろよのこ歟事なり。殊小山
王一宗の神乃成う第ゐ孫ゐ延久とこ
それ人事偏ゐ海師の原思報しても
な成ゑ乃ゑ傳ゑ大織冠ハ藤氏乃宗廟
ゐして今小玉そうさ人ゐ王鎌足拾
津王阿威ゐ葬しく一回とゐ多武
峯ゐ遷殯せ。そうん投伊ゆ有まゆ事。
ゐ〻なゑ成ゑうとまゐ久熊山小置一回して

日光山小遷瑞をゞしとゝりく海師ゟ
作りゝくゝゟ経すくゝ麓ぜさ為ひしに
南禅寺僧宗伯和尚とゝゝる本多上野ゟ
薮原正純をゝゝひ吉田の廣流ゟて宗源
ゟ神道を学し者とん紙おもせ唯一の
化義ゝて久能ゟ世さゑ為り海師をで
ゟ学つけざ稽だせるんゝるくておせゝ
ゝをくの日。大樹出為ひ御病中仕し
人くゟ御対面あり海師を左方の

座上ゝつき宗傳ハ右方の座ゝ上ゝあを
しがいぎりおゝ利為るしべ追悼ゟ貢を
のべく御遺云ゝゟ義ゞ久能山ゟ
幕里ゟり伝ふゝゝせべ海師をゝみ出。
御ゟて云ハいづちゝゝれをゝゝを伝ること
ありしべさてハ御ゟ津ゟりと
中ゝゝりゝゝなゝれ伝る何ゟう御ゟ
云ゟゟゟひ伝ゝゝゝゝ御ゆんゞん
ハ山王一実の習合ゟ神道ゝゝて伝を

夕部へ宗源ぞ紀のうきて侍りて
ありしうべ。亡君豊國明神のをそれ
と云へく神よいたれ給へこの御ん
きうあるとだ唯一よいたひ給へ御
ゆえ不思議あらんといへり。海の給へ。亡君
あさ夕御ぶ御ぶ久しうえん
事と祈ひ給へり彼神ぞういまのあ
うり亡滅し給ひ給へ。
きうまれうのあり。貴御とく事尚

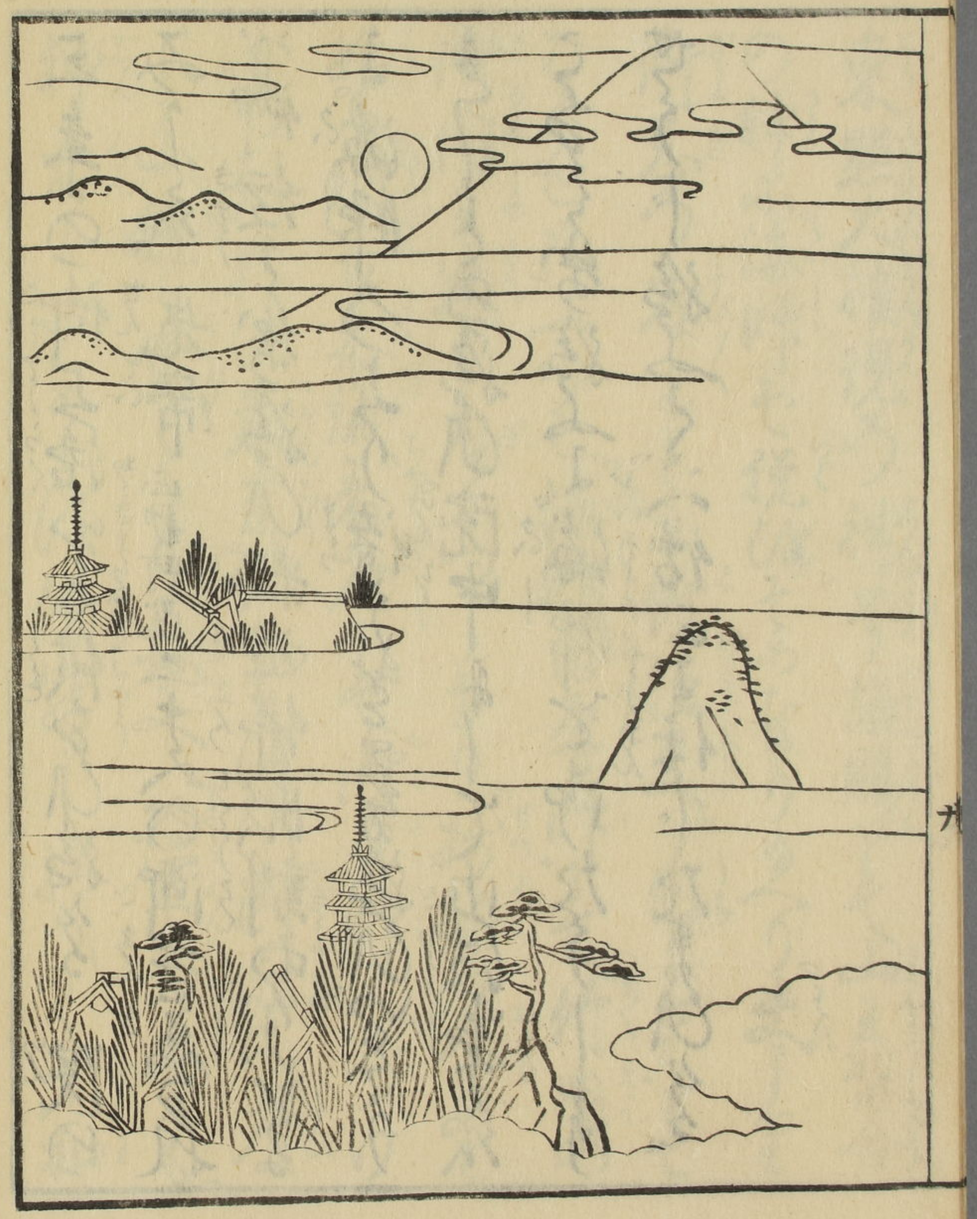
家とうきをえまやは汝宗源とも習合と
もいうぞうあんと問答数返なりしうり。
上野ゆうりお御おとひもうゆ御表
傷の打うかうの事ト出をるとうかとも
し南光坊とうぞ書鴻よのうてん
とく座敷引立をれべ。柳営もやうて
入を給へ海師へ座をそらを流とけ
ゆうあとを待給へ。柳営江城り
へうり勢給へとて一日何のやうん僧正と宗

僧と四条合をしるす所の石碑ハ僧正江戸
よりくだしたまへるなんとありしかば。
ちゝおびてまゐり拾ひしゆゑ出育
さ後ちゝ拾ひ名れだ出生ゝ の名人
しるす拾ひしあ。 大樹拾ふ人我愚
昧なれば神乃ゆゑ いざまつ涙さ拾ど
故相國ハ仏の乃あん仏入させ拾て神と
佛と一の乃あつたゞそれて亡親の御
んりうあるふくまつれ道をしだ。

図へうぐひてんそて源重正と御使
く林永喜とい角る儒学ハ者仏さそ
拾正乃ゞり拾ひく養吹そる習合ハ
神道めづしらぶ。殊ゝ山王一實乃神
道。台宗ハ奥義とさる事ハを伝んこの
論言して習合ハ回記ゞ賜ゝさせ拾ゝ
急ハ自江戸へつかへして。 大樹拾び
拾ゝ限なし。拾ゝ
号神と日光山ゝ拾ゝ一回ハを拾ゝまだ。

東照大權現の神号諡賜ふて山王習合
の神ゝ海師で祝ひそなりゆえ
御忌の度ごとに御法度。用ゐ
なる世なれども海師出尊師まで竹園の
御門主達も産ゝつゝるり拵親ゝ大臣と
始め納言参議着座して御尊師よりづけ
の引物ゝ巖重ゝ賜ひ御忌の度
ごとゝ魏ゝ堂ゝ上り扨又 将軍秀忠公も
神君をとゝびゝ優寛し給ひく元和

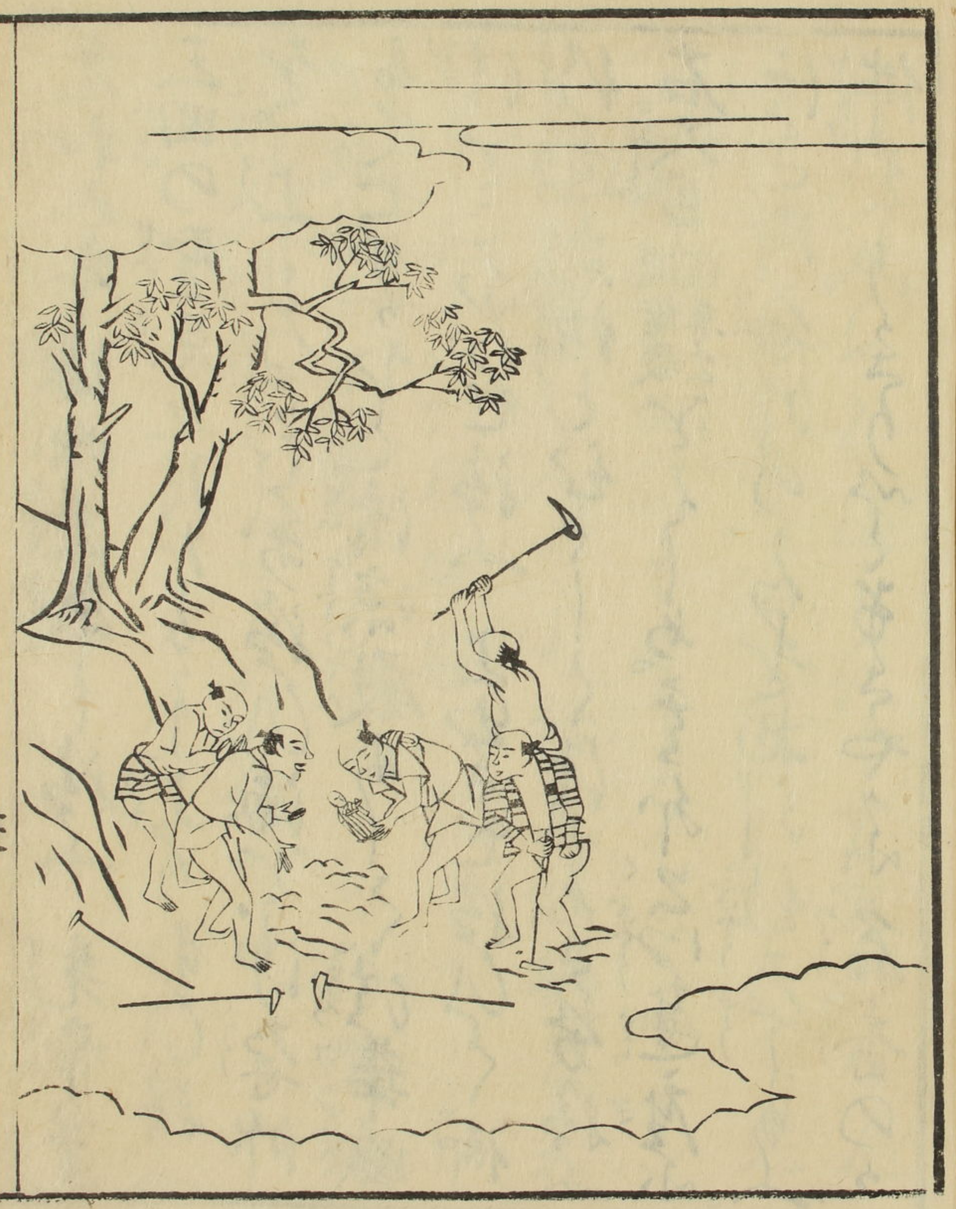
三年の御上洛ゝ伴ひ給ふる。院の
みゝぶ。先帝 正親町院二十又の御年忌に
べ御経ゝ参給ひ釈迦佛脇刻ありをる
よ海師ゝより待ゝ参給ひいとゝう
きゝしの給ひ院中ゝて出法事終
こゝゝ参給ふよ海師をゝ御だゝしゝ
せゝゝど給ゝくゝ八僧正よ住じたまひる。



同じ年の夏は日光山東照神祠の奥の院のうしろ小神君忠勤の人くの骨堂にてんとて地を引ならす此地あへうまれば仏像あらむして巖石と堀くづしあらはす紙は金泥の地蔵菩薩一祈場出せり今は道院の堂内に安置せり。

中ごろ藤原正成成瀬隼人正といへるは神君の名臣なり紙尾別の亞相義直へ付き世話よ。

それゆへくも忠勤をはげまつつ今日は



祈ひらるべしと久神で死後よ。雷神の御ちからふ伝ちんこいひしら祖なく身まちをちるふ。義直公指ろ祖氏学ちく。ゆんごんくあ人ば。日光山ち死骸をくらまをちるふいまご死をざるこ三日まへ海の荒ちるへ。今朝神祠ふ彩りしふ正成ちふ来ちく神君の御およ伝氏みはちるなり。正成あの時分御ちりぬとち指ひ出ちてちふ来ちんいと義まあも伝ちて。波とちしふ。

元和元年海路上京し給ふ　先帝第
三回の聖忌九月なるゆゑ上りあひ給ふ
を。上ゆゑ御和歌清涼殿にて法華懺
法とゝ[illegible]世給ひ。海と御尊師
幼道院殿と[illegible]給ひ。上出世給ひ御
右大臣（近衛殿信尋公）とゝ[illegible]
法き御尊師の[illegible]を相引[illegible]
佛[illegible]ぞり給ふ。名香の

ゆ[illegible]ひみちく法界に十方界ゆも遍
滿[illegible]文[illegible]乃御回向とおもへ。悲
嘆聲は哀曲ハ[illegible]
[illegible]
はゝ[illegible]ゆ六根懺悔乃朔日[illegible]
生死輪回[illegible]雲も[illegible]行道誦
經の夕[illegible]

V1 3403